

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年2月13日
【四半期会計期間】	第70期第3四半期（自平成24年10月1日至平成24年12月31日）
【会社名】	フリージア・マクロス株式会社
【英訳名】	FREESIA MACROSS CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 奥山 一寸法師
【本店の所在の場所】	東京都千代田区外神田六丁目8番3号
【電話番号】	03 - 5818 - 1522（代表）
【事務連絡者氏名】	経理部長 篠崎 温儀
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区外神田六丁目8番3号
【電話番号】	03 - 5818 - 1522（代表）
【事務連絡者氏名】	経理部長 篠崎 温儀
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第69期 第3四半期連結 累計期間	第70期 第3四半期連結 累計期間	第69期
会計期間	自平成23年4月1日 至平成23年12月31日	自平成24年4月1日 至平成24年12月31日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
売上高 (千円)	8,113,182	9,102,943	11,089,957
経常利益 (千円)	475,370	657,935	572,994
四半期(当期)純利益又は四半期純 損失() (千円)	134,479	48,462	19,920
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	135,673	312,182	359,296
純資産額 (千円)	6,483,684	7,010,925	6,707,307
総資産額 (千円)	14,791,746	16,474,739	15,796,160
1株当たり四半期(当期)純利益金 額又は四半期純損失金額() (円)	0.30	0.11	0.04
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	29.7	27.9	28.8

回次	第69期 第3四半期連結 会計期間	第70期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成23年10月1日 至平成23年12月31日	自平成24年10月1日 至平成24年12月31日
1株当たり四半期純利益金額又は 四半期純損失金額() (円)	0.06	0.19

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 当社は、四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間のわが国の経済は、輸出の減少等により景気は停滞しておりましたが、復興需要の顕在化や円高是正など景気回復の動きも見られます。しかしながら欧州債務問題の長期化やアジア諸国の景気動向など、先行きが不透明な状況にあります。

かかる情勢の下での当グループの経営成績は、売上高は、9,102百万円と前年同四半期に比べ989百万円(12.2%)増加しました。また営業利益は、670百万円(前年同四半期営業利益669百万円)、経常利益は、657百万円(前年同四半期経常利益475百万円)、四半期純利益は、48百万円(前年同四半期純損失134百万円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

製造供給事業

本事業においては、各種容器、プリント基板等の販売にて売上を伸ばしたものの、ATM等の受注が下期に集中することから、売上高は2,115百万円と前年同四半期に比べ237百万円減少し、セグメント損失は、18百万円(前年同四半期セグメント損失26百万円)となりました。

住宅関連事業

本事業においては、防蟻及び断熱工事等が前年より順調に推移したことに加えマンション販売数が増加したことにより、売上高は6,792百万円と前年同四半期に比べ1,066百万円増加しました。セグメント利益は576百万円(前年同四半期セグメント利益675百万円)となりました。したがって、通期を通しては、計画通りに推移するものと想定しております。

投資・流通サービス事業

本事業においては、新規顧客の増加及び固定費等コストの節約により、売上高は403百万円と前年同四半期に比べ103百万円増加し、セグメント利益も、130百万円と前年同四半期に比べ47百万円の増加となり、今後も堅調に推移するものと想定しております。

(2)財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ678百万円増加し、16,474百万円となりました。主な要因は、たな卸資産等が増加したことなどによります。

また、負債は、前連結会計年度末に比べ、374百万円増加し、9,463百万円となりました。主な要因は、流動負債その他(未払金)等が増加したことなどによります。

この結果、純資産は前連結会計年度末に比べ303百万円増加し、7,010百万円となりました。

(3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4)研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,800,000,000
計	1,800,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	450,993,208	450,993,208	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 1,000株
計	450,993,208	450,993,208	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成24年10月1日～ 平成24年12月31日	-	450,993,208	-	2,077	-	973

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 848,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 449,272,000	449,272	(注1)
単元未満株式	普通株式 873,208	-	(注2)
発行済株式総数	450,993,208	-	-
総株主の議決権	-	449,272	-

(注)1 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式2,420,000株が、「議決権の数」の欄には、証券保管振替機構名義の議決権の数2,420個がそれぞれ含まれております。

2 「単元未満株式」には、当社所有の自己株式19株が含まれております。

【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
フリージア・マクロス(株)	東京都千代田区外神田6-8-3	848,000	-	848,000	0.18
計	-	848,000	-	848,000	0.18

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、清流監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,680,564	442,873
受取手形及び売掛金	1,809,805	2,019,840
たな卸資産	3,746,833	4,625,418
短期貸付金	276,012	303,306
繰延税金資産	52,424	64,928
その他	562,390	1,284,809
貸倒引当金	48,575	43,004
流動資産合計	8,079,455	8,698,172
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,400,238	2,470,280
機械装置及び運搬具	597,519	679,036
土地	3,685,517	3,699,932
建設仮勘定	115,967	-
その他	121,696	123,629
減価償却累計額	1,919,547	2,038,004
減損損失累計額	230,537	230,528
有形固定資産合計	4,770,854	4,704,346
無形固定資産		
借地権	317,020	326,395
その他	28,957	28,695
無形固定資産合計	345,977	355,090
投資その他の資産		
投資有価証券	65,058	41,817
関係会社株式	1,849,674	1,896,909
長期貸付金	49,786	37,977
差入保証金	459,300	569,390
繰延税金資産	3,567	10,600
その他	186,884	180,889
貸倒引当金	14,398	20,453
投資その他の資産合計	2,599,872	2,717,129
固定資産合計	7,716,704	7,776,567
資産合計	15,796,160	16,474,739

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,336,186	1,925,960
短期借入金	1,534,744	1,633,492
1年内返済予定の長期借入金	617,280	653,087
1年内償還予定の社債	30,000	30,000
未成工事受入金	295,919	280,685
未払法人税等	203,034	284,948
完成工事補償引当金	59,599	53,480
賞与引当金	28,350	68,540
繰延税金負債	-	1,675
その他	810,221	1,532,130
流動負債合計	5,915,336	6,464,000
固定負債		
社債	230,000	290,000
長期借入金	1,918,121	1,668,611
繰延税金負債	177,166	181,020
退職給付引当金	8,021	8,361
負ののれん	156,491	177,297
その他	683,715	674,522
固定負債合計	3,173,516	2,999,812
負債合計	9,088,853	9,463,813
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,077,766	2,077,766
資本剰余金	973,803	973,803
利益剰余金	1,590,793	1,630,755
自己株式	18,273	18,336
株主資本合計	4,624,089	4,663,988
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	72,020	68,588
その他の包括利益累計額合計	72,020	68,588
少数株主持分	2,155,238	2,415,525
純資産合計	6,707,307	7,010,925
負債純資産合計	15,796,160	16,474,739

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	8,113,182	9,102,943
売上原価	4,990,144	5,700,072
売上総利益	3,123,038	3,402,871
販売費及び一般管理費	2,453,501	2,732,541
営業利益	669,536	670,329
営業外収益		
受取利息	2,507	2,238
受取配当金	1,684	1,019
負ののれん償却額	16,428	16,428
持分法による投資利益	-	62,957
その他	40,012	36,980
営業外収益合計	60,632	119,624
営業外費用		
支払利息	70,115	76,018
持分法による投資損失	126,788	-
その他	57,893	56,000
営業外費用合計	254,798	132,018
経常利益	475,370	657,935
特別利益		
投資有価証券売却益	-	8,058
特別利益合計	-	8,058
特別損失		
固定資産売却損	-	2,524
固定資産除却損	1	1,347
投資有価証券評価損	2,845	10,999
関係会社株式評価損	-	999
関係会社株式売却損	-	18,140
特別損失合計	2,846	34,013
税金等調整前四半期純利益	472,524	631,980
法人税、住民税及び事業税	366,460	329,795
法人税等調整額	33,705	10,811
法人税等合計	332,754	318,984
少数株主損益調整前四半期純利益	139,769	312,996
少数株主利益	274,249	264,533
四半期純利益又は四半期純損失()	134,479	48,462

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	139,769	312,996
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,046	4,386
持分法適用会社に対する持分相当額	5,142	3,572
その他の包括利益合計	4,096	814
四半期包括利益	135,673	312,182
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	139,843	51,894
少数株主に係る四半期包括利益	275,516	260,287

【会計方針の変更】

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
マツヤハウジング㈱	180,000千円	マツヤハウジング㈱ 160,000千円

2 受取手形割引高及び受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
受取手形割引高	464,380千円	524,252千円
受取手形裏書譲渡高	-	12,875

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
減価償却費	129,994千円	154,954千円
のれんの償却額	52,639千円	37,234千円
負ののれんの償却額	16,428千円	16,428千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	22,507	0.05	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	22,507	0.05	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			
	製造供給事業	住宅関連事業	投資・流通 サービス事業	計
売上高				
外部顧客への売上高	2,338,521	5,616,660	157,999	8,113,182
セグメント間の内部売上高 又は振替高	15,203	109,871	141,891	266,966
計	2,353,725	5,726,532	299,891	8,380,149
セグメント利益又は損失()	26,736	675,310	83,223	731,797

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	731,797
セグメント間取引消去	9,621
のれんの償却額	52,639
四半期連結損益計算書の営業利益	669,536

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
 該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年12月31日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			
	製造供給事業	住宅関連事業	投資・流通 サービス事業	計
売上高				
外部顧客への売上高	2,099,495	6,739,547	263,901	9,102,943
セグメント間の内部売上高 又は振替高	16,322	53,407	139,270	209,000
計	2,115,818	6,792,955	403,171	9,311,944
セグメント利益又は損失()	18,605	576,337	130,983	688,714

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	688,714
セグメント間取引消去	18,849
のれんの償却額	37,234
四半期連結損益計算書の営業利益	670,329

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期 純損失金額()	0円30銭	0円11銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額() (千円)	134,479	48,462
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純 損失金額()(千円)	134,479	48,462
普通株式の期中平均株式数(千株)	450,151	450,146

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月13日

フリージア・マクロス株式会社
取締役会 御中

清流監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 安田 裕 印

業務執行社員 公認会計士 加悦正史 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているフリージア・マクロス株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、フリージア・マクロス株式会社及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。